

# 大阪大学医学系研究科呼吸器免疫内科学における研究課題「免疫関連疾患・呼吸器疾患の病態解析のための検体バンクの構築」において血液試料をご提供いただいた皆様へ

2023年12月28日

過去に提供いただいた試料・情報を、新しい疾患バイオマーカーの探索を目的として計画された下記研究課題に使用させていただきます。その概要を記載いたしますので、この研究課題についてご質問・ご相談等がございます場合、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

ご自身が提供された試料・情報をこの研究課題に対して利用・提供してほしくないと思われました場合にも、問い合わせ先までお申し出ください。提供者ご本人あるいはその代理人からお申し出いただいた際は、その試料・情報の利用を停止します。

## 研究課題名

大型血管炎におけるサイトカインプロファイリングとプロテオミクスによるバイオマーカー探索

## 研究責任者

足立 淳：医薬基盤・健康・栄養研究所 医薬基盤研究所  
創薬標的プロテオミクスプロジェクト プロジェクトリーダー

## 共同研究機関の研究責任者

川崎 貴裕：大阪大学 先端免疫臨床応用学共同研究講座 特任助教  
中岡 良和：国立循環器病研究センター 血管生理学部 部長  
石川 義弘：横浜市立大学 循環制御医学 教授  
横山 詩子：東京医科大学 細胞生物学 教授  
片田 圭宣：市立吹田市民病院 呼吸器・リウマチ科 部長

## 本研究の目的

大型血管炎においては、治療効果を判定する血清学的な指標として、非特異的な炎症マーカー（CRPや赤沈、血清アミロイド A）が用いられてきました。しかしそれらが沈静化していても病勢の高い症例も経験され、新たなバイオマーカー同定が強く望まれています。多くの病気の原因は遺伝子の最終産物であるタンパク質の異常によって起こっているため、病気の原因となるタンパク質の発見が最重要課題です。このタンパク質を網羅的に解析する手法がプロテオミクスであり、特に病気の原因となるタンパク質の発見にはヒトの血液、尿、組織などの臨床材料を用いたプロテオミクス研究が不可欠です。

エクソソームは様々な細胞が放出する直径 30~100nm の細胞外小胞です。近年、エクソソームに含まれる蛋白質やRNAが癌細胞など病的細胞のバイオマーカーとして有用であることが報告されており、疾患の早期診断や治療効果の判定などとの相関性が活発に研究されています。しかし、大型血管炎におけるエクソソームの役割は十分に解明されていないのが現状です。

本研究では、最新のプロテオミクス技術を使い、ヒトの血液などの臨床材料のエクソソームから大型

血管炎の診断や治療に有用なタンパク質を発見することを目的としています。

## 研究実施期間

この研究課題の研究期間は2029年12月31日までです。

## 研究の方法

### 【研究対象者】

2012年4月1日以降、大阪大学医学系研究科呼吸器免疫内科学における「免疫関連疾患・呼吸器疾患の病態解析のための検体バンクの構築」に関する研究において血液試料や診療情報をご提供いただいた高安動脈炎、もしくは巨細胞性動脈炎の方

### 【本研究課題で利用する試料・情報の項目】

血液（血清、血漿、PBMC）、年齢、性別、疾患名

### 【研究方法の概要】

大阪大学呼吸器内科で採取された高安動脈炎、もしくは巨細胞性動脈炎患者の血液のエクソソームから、医薬基盤・健康・栄養研究所創薬標的プロテオミクスプロジェクトにおいてタンパク質を抽出し、質量分析計を使ってタンパク質解析を行います。遺伝子解析は実施しません。

## 試料・情報の提供について

試料・情報は国立循環器病研究センターを通じて、試料は宅急便で、情報はメールで基盤研に送られます。試料・情報は、医薬基盤・健康・栄養研究所のみの利用とします。

## 個人情報の取り扱い

個人情報は大阪大学呼吸器内科で匿名化されるため、医薬基盤・健康・栄養研究所では、個人情報は扱いません。

また、研究成果を学会や論文等で公表する際にも、個人が特定できないようにします。

## お問い合わせ先

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬標的プロテオミクスプロジェクト

プロジェクトリーダー 足立 淳

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7-6-8

電話：072-641-9811 内線 3209

大阪大学先端免疫臨床応用学共同研究講座 特任助教 川崎 貴裕

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

電話：06-6879-3833

国立循環器病研究センター 血管生理学部 部長 中岡良和

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6-1

電話：06-6170-1070